

平成 28 年度 自己評価表

鳥取県立鳥取東高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 人間力の育成                      2 学習指導の充実と進路指導の強化 3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実      4 学校運営の点検と教育環境の整備</p>
---------------------------	---	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 ( )月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
<p>1 人間力の育成</p>	<p>①文武両道を基本とした部活動の奨励、ボランティア活動への参加を推進する。</p>	<p>○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が約70%。 ○昨年の近畿高総文祭には多くの生徒が参加した。ボランティア活動への参加環境整備は不十分。</p>	<p>○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が80%以上。 ○各種ボランティア活動や学校として地域活動への貢献に取り組んでいる。</p>	<p>○はじめのある部活動を推進し、家庭学習への取組を部顧問・学年で連携して指導する。 ○ボランティア活動の広報方法を再検討し、生徒会執行部を中心に取組を進める。</p>			
<p>2 学習指導の充実と進路指導の強化</p>	<p>②3年間を見通した教科指導体制の整備と「確かな学力」を養成するための授業改革を推進する。</p>	<p>○複数の教科・教員が協同的な学習などのアクティブラーニングに積極的に取り組んでいるが、広がりには十分でない。 ○大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態や教育課程に対応した指導学習の充実を図りつつある。</p>	<p>○各教科の授業でICTの活用や授業改革を進め、公開授業や研究授業を積極的に行っている。 ○全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る。</p>	<p>○ICTを活用した協同的な学習等、アクティブラーニングを取り入れた授業改革を各教科に広げていく。 ○生徒の実態や教育課程に対応した授業計画を立てて、3年間を見通した教科指導を実践する。</p>			
<p>3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実</p>	<p>③将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて努力する力を育成する。</p>	<p>○面談や「鳥取学」、各種講演会など、校内外の教育力を活用した結果、生徒の進路意識が高まりつつある。 ○授業に対する満足度は高いが、主体的・計画的に学習している生徒は低学年で60%前後。 ○授業での図書館利用や集団読書に力を入れている。図書の貸出冊数は多いとはいえない。</p>	<p>○学年それぞれに応じた進路目標を持ち、学習に取り組んでいる。 ○生徒が自分なりの学習習慣と学習方法を身につけている。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が75%以上。 ○図書館の利用者数や貸出冊数が増加する。</p>	<p>○「鳥取学」、各種講演会など、校内外の教育力を活用し、生徒が高い志を持ち、将来像を描けるようひきつづき指導する。 ○LHRや「総合的な学習の時間」を活用した進路プログラム、各学年の「進路だより」などにより、進路意識の向上を図る。 ○面談を通して、生徒の主体的学習や進路意識向上を促す。 ○授業や朝読書(集団読書)などをとおして、読書への動機付けをはかる。</p>			
<p>4 学校運営の点検と教育環境の整備</p>	<p>④規範意識を持ち、健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。 ⑤心身の健康を増進し、いじめや差別を許さない教育を推進する。</p>	<p>○挨拶・清掃・身だしなみが十分とはいえない。 ○自転車マナーについて、市民から指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故は減少した。 ○少数ながら人間関係がうまく作れない生徒がいる。 ○不登校傾向の生徒が学年に数人いる。</p>	<p>○スマートフォン等の使い方を含め、家庭における生活習慣(起床、帰宅、学習開始、就寝などの時間等)が確立している。 ○自転車マナーが向上し、登下校時の事故がさらに減少する。 ○生徒が安心して生活を送ることができる学校である。 ○生徒の様子の変化に、学校として迅速・適切に対応している。</p>	<p>○スマートフォン等の使い方を含め、家庭における生活習慣(起床、帰宅、学習開始、就寝などの時間等)が確立している。 ○決められた自転車通学ルートの通行を指導し、登下校時に定期・随時の交通安全指導を行う。 ○hyper-QUやいじめアンケート等を活用して生徒の状況を的確に把握し、迅速な対応を行う。 ○日頃から保護者と担任、学年と保健部の連携をはかり、必要に応じて外部専門機関の協力を得る。 ○生徒会執行部と近隣地域との交流に一般生徒の参加を推進する。 ○学校と保護者役員が協力して、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。</p>			
	<p>⑥中学校や地域との連携を強化し、PTA活動の充実・発展を推進する。 ⑦学校ホームページの活用等によって情報発信を充実する。</p>	<p>○中学校や地域との連携が進んでいる。 ○学校祭や進路講演会などの行事に保護者が積極的に関わっている。</p>	<p>○中高スクラム教育や地元町内会との交流がさらに進む。 ○PTA行事に参加する保護者が増加する。 ○ホームページ等を利用して、学校の情報公開を積極的に行っている。</p>	<p>○生徒会執行部と近隣地域との交流に一般生徒の参加を推進する。 ○学校と保護者役員が協力して、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。 ○ホームページ作成委員会を機能させ、ホームページの更新を組織的に進める。</p>			